



子どもたちを真ん中においた これからの学校って？

小中連携・一貫教育を
さらに進めた学校づくりって？どんなの…？

・・・例えば県内外の事例としてこんな学校が考えられます。

小中一貫学校・義務教育学校

小中一貫学校

小学校と中学校はそれぞれ置きますが、義務教育9年間を通した教育活動をより一貫的に行うしくみです。授業だけでなく、小中学校の垣根を超えて様々な活動や行事を行います。一貫教育の軸となる新教科(例：ふるさと科、まちづくり科)をつくったり、小中学校の指導内容を入れ替えたりすることができます。小中別々の校長の下に、それぞれの学校に職員組織が組まれます。



- ・小学校と中学校は別々の学校
- 《特徴》・教員配置・学校組織は従来どおり
- ・校長、教頭は各校に一人ずつ

《県内の事例》

- ・佐久穂小中学校(佐久穂町)(施設一体型)
- ・両小野小中学校(塩尻市・辰野町)(施設分離型)

義務教育学校

小中一貫をさらに進めて、小中学校の区分を設けずに、9年間の義務教育課程の教育活動を1つの学校で行うしくみです。従来の小中の6-3年制だけでなく、発達段階や教育課題に応じて4-3-2制や5-4制の設定が可能です。特別な教科を設定した特色ある教育活動が可能になります。一人の校長の下に、一つの職員組織が組まれます。



- ・義務教育9年間1つの学校
- 《特徴》・一人の校長、一つの職員組織
- ・柔軟な学年の区切りが可能

《県内の事例》

- ・信濃小中学校(信濃町)
- ・根羽学園(根羽村)
- ・美麻小中学校(大町市)
- ・檜川小中学校(塩尻市)



ハガム
2023.1
特別号

17

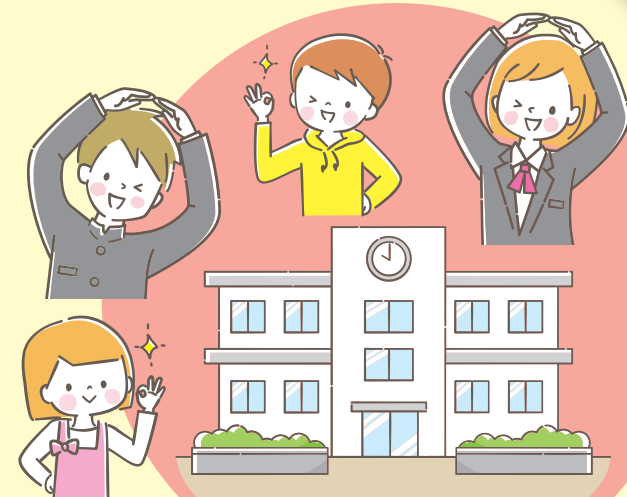
飯田市教育委員会が届け出る子どもをめぐむ情報誌

2023年1月5日発行 飯田市教育委員会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534 ☎0265-22-4511

ハガム

飯田市
教育ビジョン

地育力による
未来をひらく
心豊かな人づくり



～子どもたちを真ん中においた～

これからの学校づくり について検討を進めています

飯田市では少子化や学校施設の老朽化などが急速に進んでいます。このような中で飯田市教育委員会では、子どもたちを真ん中においたこれからの学校のあり方についての検討を行っています。昨年度から、各学校運営協議会での話し合いをスタートし、子どもたちを主役に、皆で知恵を出し



アンケートを
実施します！
ご協力をお願いします！

合いながら、よりよい教育環境づくりへ向けて検討を進めています。

今年度は、子どもたちのより良い学びの場づくりについて保護者アンケートを実施します。ご協力をお願いします。

学校を取り巻く現状、子どもたちへの影響

児童生徒数の減少

- ・ピーク時(H5)の11,743人からR4は7,783人へと激減(約30年で3割以上減少)
- ・毎年100人超のペースで少子化が進行しており、R9には7,000人を下回る予測
- ・それに伴う教員配置数の減少

約30年で
30%以上減



毎年100人超の
ペースで少子化

校舎の老朽化の進行

- ・施設改修や改築の周期とされる築50年を経過した学校が全体の1/3を占める
- ・校舎の改修や老朽化した施設の管理には膨大な費用が必要

築50年経過の
学校が全体の1/3に



子どもたちや教育活動への影響

- ・限られた人間関係の中での学び
- ・クラス構成の変化(2つの学年を1つにした複式学級やクラス替えできない学校の増加)
- ・小学校の音楽や家庭科を担当する教員の不足や中学校教科担任の不足(学級数が専科教員数と連動するため)
- ・教育活動費の圧迫(施設整備費用の拡大)

学校を
取り巻く現状

子どもたちへの
影響



より詳しくは
ウェブサイトで
ご確認ください

<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/37/haguyousai0501.html>

保存版
保護者アンケートに
ご回答いただく際にお使い下さい

検討を進めるうえで 大切にしたいこと

子どもたちが、確かな学力と生きるための力を
身につけることができる教育環境であること

地域とともに歩む、飯田コミュニティスクール（※1）や
小中連携・一貫教育（※2）の特色を生かした学校づくりであること

将来この地域の担い手となる子どもたちのために、
子どもたちが主役となる学校づくりであること

※1 飯田コミュニティスクール 学校運営協議会を置いて、家庭、地域、学校が“めざす子ども像”を定め、そのめざす子ども像に向かって、三者が相互に承認・評価し合い、地域住民が積極的に学校の活動を支援し協働していく飯田ならではの学校のしくみ。

※2 小中連携・一貫教育 小中学校が互いに情報交換や交流を通じ、小学校から中学校への円滑な接続をめざすとともに、めざす子ども像を小中学校が共有して、子どもたちが9年間を通じて系統的な学びを行えることを重視した教育。

飯田コミュニティスクールの 取組事例

小中連携・一貫教育の 取組事例

「よこね田んぼで田植え・稲刈り体験活動」



（写真は令和2年度のもの）

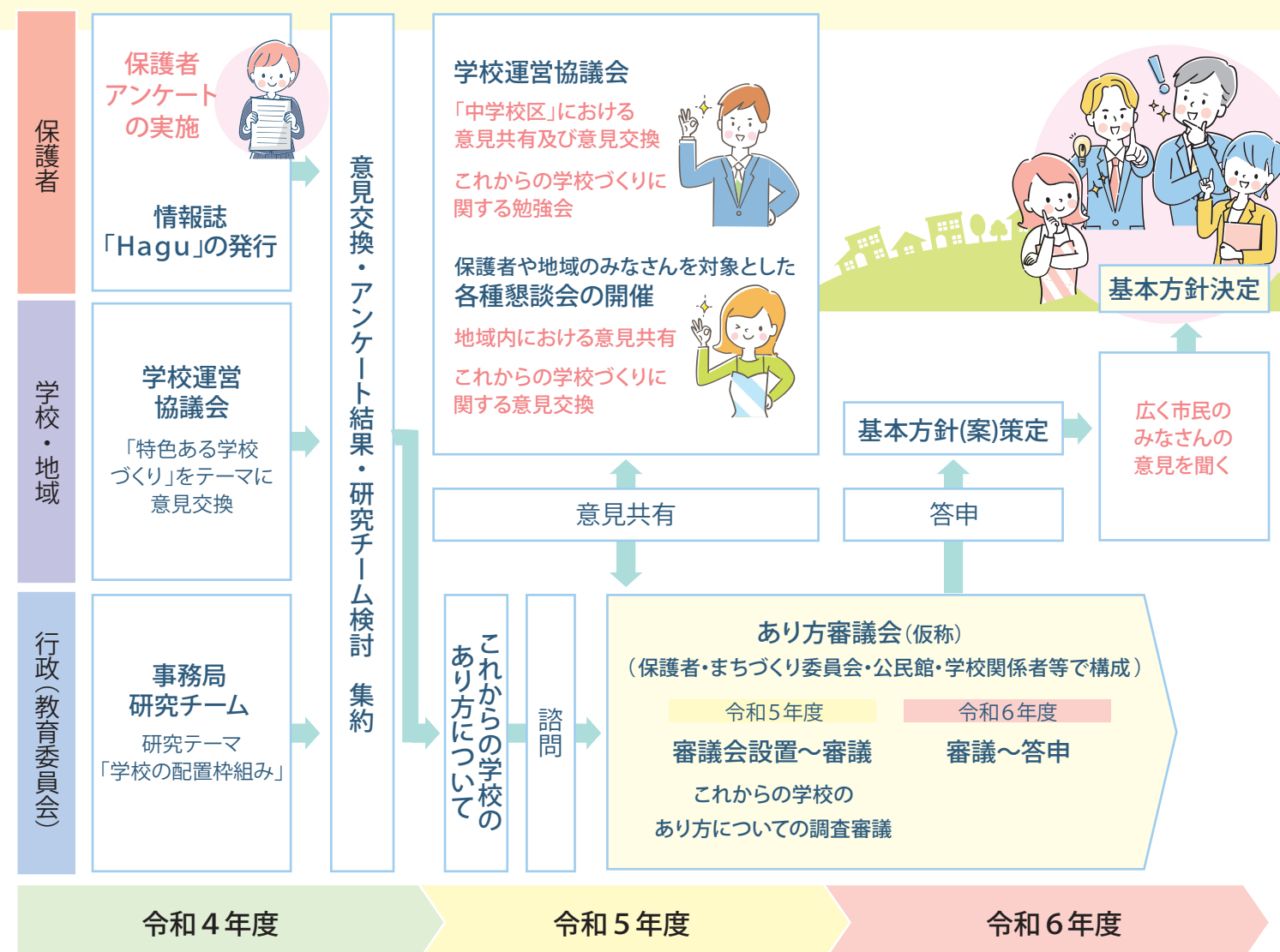
千代小学校、千栄小学校、竜東中学校は、3校合同で千代地区にある日本の棚田百選「よこね田んぼ」で田植え・稲刈り体験活動を行っています。体験活動は地区の住民で組織する「よこね田んぼ保全委員会」の方に指導をいただき、竜東中学校1年生が班のリーダーとなって千代小学校・千栄小学校の1～6年生と一緒に活動します。地域について学ぶだけでなく、学校間や異年齢間でともに学び合い、社会性を育む機会となっています。

「外国語・英語教育でも小中連携」

鼎小学校と鼎中学校では、授業の中で、「small talk」（身近な話題について自分の気持ちや考えを英語でやり取りする活動）に継続的に取り組んでいます。その際、鼎小学校が「表現のヒント」として使用している「ワクワクフレーズ」を、鼎中学校でも活用するようにしています。また、中学校の英語科教員が小学校の外国語の授業を参観することで、授業の様子や児童の実態を把握し、中学校での指導に生かすといった取組もを行っています。

小学校と中学校が学びや学び方を連携していくことで、子どもたちが小中の授業にギャップを感じることなくスムーズに学習を進めることができます。

今後の検討の進め方



1月
実施予定！

アンケートへのご協力をお願い

アンケートを実施します！

アンケート調査を1月に実施予定！

子どもたちを真ん中においた学校づくりに向け、保育園・幼稚園(年長・年中)や小中学校の保護者を対象にしたアンケート調査を1月にします。みなさんの声をお聞かせください。

本パンフ「Hagu」をご参考にして下さい！

アンケートにはこの「Hagu」を読んでからお答え下さい。

学校づくりに活用させていただきます！

アンケート結果は、飯田らしいこれからの学校づくりに向けて「保護者の声」として有効に活用させていただきます。